

【事業名】東大和市立狭山緑地におけるトウキョウサンショウウオ産卵地再生事業
（東京都東大和市） 【団体名】東大和市

令和5年度 生物多様性
保全推進支援事業
実績報告書別紙10-6

事業の背景・目的



- トウキョウサンショウウオ産卵地点において、令和元年度に土砂災害が発生。令和3年度に復旧工事が完了したが、下記の現状から、早急に事業を進めなければ、種が絶滅する可能性が極めて高い状況にある。

- ①土砂災害によって主要な産卵地が消失したことから、新たな産卵地の創出等、産卵・生育環境を整備する必要がある。
- ②市内のボランティア等との連携により、産卵地や周辺環境を後年に渡り維持していくための維持管理体制を構築する。
- ③アライグマやアメリカザリガニ等の外来種が増加しており、捕食による減少が懸念され、対策を講じる必要がある。

事業の内容

- 新たな産卵地として適切な場所を複数選定するため、東大和市立狭山緑地（以下、狭山緑地という。）内の自然環境等の調査及び産卵地候補地点における水量・水質等調査を実施し、次年度の池の創出に係る方向性を整理。

ア 文献等調査

トウキョウサンショウウオの生態及び狭山緑地や周辺環境に関する文献資料等の調査、有識者へのヒアリング調査の結果をまとめ、現地調査の基礎資料とした。

イ 狭山緑地現地調査

文献等調査により、8地点を適地候補地点とし、地下水量や水質の調査を4回（季節毎）実施。
→産卵地としての条件を満たす4地点を選定。

有力な候補地点である2地点において、池の創出作業を次年度実施する方向として確認した。

ウ ボランティア等との連携

令和6年度以降の維持管理体制の構築のために市内ボランティア団体等（3団体）と本事業に関する情報共有を実施。

→次年度の事業の方向性を確認。
今後の連携基盤を整えられた。

得られた成果

- ★狭山緑地内のトウキョウサンショウウオの産卵地として適切な場所を把握し、候補地点として複数選定できた。

→この調査結果をもとに、次年度、池の創出や外来種防除を実施することで、トウキョウサンショウウオが産卵地として選択する環境を整えることができる。

- ★トウキョウサンショウウオの保全を各団体が連携して実施していける準備を整えることができた。

→市のみではなく、ボランティア団体や教育機関が参加に前向きであり、後年に渡り、連携し合える環境が確認できた。



- ★トウキョウサンショウウオの産卵地への定着及び卵のう数の回復は、短期で実現できるものではなく、数年の時間を要するものである。

→事業効果を最大限高めるために、産卵地候補地点の整備や外来種防除、他団体との連携等、多方面からのアプローチを実施していく。